

くまゆき

2011/10 秋号

38号

通刊75号

<http://www.kumayuken.org/>
✉ info@kumayuken.org

農林水産省登録認定機関・特定非営利活動法人(NPO) 熊本県有機農業研究会 発行
〒861-8028 熊本市新南部2丁目5-13 Tel096-223-6771/Fax096-223-6772 振替:01980-7-18438

特集：養成塾リポート

- ★ 各部会活動
- ★ オーガニック食クエスト
- ★ イベントのお知らせ



連載企画！

種＊花クイズ

Q. 右の写真は何の野菜の花でしょう？

☆正解者の中から抽選で3組(計6名様)に、有機食材を使ったレストラン等で使える約1000円相当のチケットをプレゼントいたします！何の野菜かわかった方は、ぜひご応募下さい。

☆応募先やチケット利用店など、詳しくは6面へ！

普段お目にかかることはありませんが、種はこんな感じです！→
(出典：ウィキペディア)



【絵・小川美弥子】

そうめんやそばの薬味として人気です。
薄紅色が特徴的で、大人の味ですが好きな人にはたまらない香りと味です。

身土不二

熊本県愛農会野菜部 部長
熊有研 理事 緒方 健

熊有研が養成塾をスタートさせてから担当理事を任せました。今回10名受け入れられました。その方達の就農を目指してなにかお力になればと思っています。しかしどうすれば就農できるのだろうと。しかも一年で独り立ちとは、私も、他の受け入れ農家もできるとは思っていないと思います。私は有機農業を目指すからこそ、何年も時間をかけて、ゆっくり学んで自分に合ったスタイルで就農してほしいと考えています。急がないでいいと思います。お米作りも一年に一度しか出来ませんし、露地野菜なども然りです。

私も就農して10年くらい経ちました。振り返って大変だなと思ったことは大型機械の導入でした。トラクター、コンバイン、トラック、その他いろいろありますが、全てあたりまえですが高価だということなんです。しかも現在の農産物の価格ではペイできない現実があります。そして一度、農機具でローンを組んでしまえばなかなか抜け出せないローン地獄。だから私は少しでも安い中古を買っては直せるところは直して、直せないところは部品だけを購入しています。だから、いつかは新規で農業をしたい人へ、農機具を貸し出したいと考えています。もちろん新品じゃありません。癖があり、古い中古かもしれませんが、機械の構造や特徴を理解して使用すれば、農産物を効率よく生産でき経営が軌道に乗りやすいのではと考えています。

それを具体的にできるのは、いつになるかは分かりませんが、それに向けて、農業を頑張っていきたいと思っています。

《しんどぶじ》…身体は土と離れてはあり得ないということ。
農業を営むひとたちにとって大切なキーワードとなっています。

【有機農業新規就農者養成塾】

★新規就農支援制度について

今年度、熊有研では熊本県の委託を受け、有機農業での新規就農者の養成を行なっています。4月より8名(8月より2名追加となり現在10名)の研修生が、それぞれの受入れ農家で毎日研修を行ない、農業実習に汗を流しています。

また、毎月1回、全員が参加して行う集合研修では、土作りや作物生理、肥料や病害虫対策、加工・販売についての基礎、有機農業実践談等々、幅広い学習を積み重ねています。6月には、脱サラで有機農業を始め、大阪府有機農業研究会を立ち上げて以来、有機農業の発展のために様々なプロジェクトを展開してこられた尾崎零さんを招き、自立に向けた「農力」の何たるか、また、農業経営に必要な体作りについて学びました。新規就農の先輩にも経験談を聞かせてもらいながら、「就農」という夢の実現に向け、日々がんばっています。

研修期間もほぼ半分を終え、これからは、具体的な就農計画の立案を目指し、より現実的な課題と向き合っていくことになります。受入農家の皆さんは、そんな研修生たちの支援協力を目的に「養成塾受入農家ネットワーク」を結成し、研修の在り方や支援体制について隔月で協議の場を設けられています。また、前県立農業大学校副校長の荒木さんにコーディネーターをお願いし、研修先の訪問や相談、市町村や協力機関との調整・連携を図っていただいています。

そうしたたくさんの方々の熱意と協力に支えられた「養成塾」事業です。研修生をはじめ皆さんの情熱に応えられるよう、熊有研として力を注いでまいります。

なお、県内新規就農相談窓口としては(有機農業に特定した窓口ではありませんが)、(財)熊本県農業公社新規就農支援センターや、熊本県立農業大学校新規就農研修部などがあります。農大研修部では4～11月にかけて、週2日の新規就農研修事業も行っています。お気軽にお問い合わせください。

<事務局 菊川・吉川>



★農業が好きで、自然が好きでめざす農業 新規就農者養成塾コーディネーター・荒木 均さんより

田んぼのアイガモ管理は大変。田おし車での除草は辛いです。菜種収穫のブリコ打ちは重労働。お客様のため雨の中でも露地野菜の収穫に追われています。毎日雑草との戦いです。などなど、有機農家ならではの研修風景である。

1ターン・Uターンなど新規就農希望者の中で、有機農業を志す人達が近年増えてきた。これに応えようと始まったのが、県内初の「熊有研・養成塾」である。

現在、10人の仲間が、それぞれの思いを胸に各地域でたくましく、歯を食いしばりながらも笑顔で研修に励んでいる。

養成塾受け入れ農家も、期待に添う研修の実現をめざして、ネットワークを設立し2ヶ月に1回評価会を開催して、何とか将来の有機農業担い手を確保したいと意気軒昂である。

1人の青年は、県外から県内大学に進学し、熊本の農業・自然の魅力にひかれ、現在、山村で、観光農園、農産加工など多角的な経営をされている農家で住み込みながら「とにかく農業が好きです」と地域にも溶け込み汗する毎日である。

彼は、是非この地で農業ができないかと模索している。就農定着するためには、彼自身の情熱と行動で、当然のことながらいくつものハードルを越えなければならない。

そのためにも、受け入れ農家はもとより、地元集落、行政、指導関係機関などが、地域ぐるみで協力支援していくことが何より重要である。

そのことが、高齢化・過疎化するムラの地域資源の再活用、農業の継承、活性化につながるのである。

※養成塾コーディネーターとは?…研修生が地域の中で就農していくために、市町村やJA等とのパイプ役を担うほか、研修生の様子をみたり、研修生や受入農家の相談に乗ったりアドバイス等を行う役割です。



上左1/ 内田 朋昭さん

受入農家：間さん

有機農業をやろうと思ったきっかけは、少しでも多くの消費者に安全で安心な野菜を食べてもらいたいと思ったからです。研修後は父と一緒に農業をやって地域の人達との交流を大切にしたいです。

上左3/ 富永 一鷹さん

受入農家：森田さん

なぜ有機農業かというと、単純に自分で食べる食物を自分で作ってみたいと思ったからです。全てではないですが、少しでも自分で作った物で毎日の飯を食べられたら安心して暮らせるとしています。

上左4/ 勝目 寿夫さん

受入農家：中村さん

有機農業を志したきっかけは、以前、料理の世界に身を置き、いろんな食料に触れる中で、食材の安全性、味等を比べていく中で自分の作った納得できる食材で、料理を提供したいと思ったからでした。

上左5/ 植田 和久さん

受入農家：原田さん

これからの有機農業の道は明るいと思うが課題も多い。今後は、農業という自然とつながった道を選んでいきたいと思う。農業の傍らカフェもやっていき楽しい有機農業を目指していきたい。

上左7/ 大和 典昭さん

受入農家：田代さん

やはり有機農業は大変だと実感しました。しかし、安心・安全な食生活で健康を保ち、医療費を減らすことは私に出来る社会貢献だと考えます。健康に過ごせるよう、今後も頑張っ続けていこうと思います。

養成塾 研修生紹介

現在研修中の10名の研修生のみなさんを、有機農業に対する想いとともにご紹介します。

上左8/ 富澤 健太郎さん

受入農家：梅木さん

私が有機農業を目指すのは、それをする事で自分が笑顔で仕事ができ、楽しめるからです。そして、自分が笑顔でしていることは必ず人を笑顔にできると思うからです。

下左1/ 清村 繁喜さん

受入農家：澤村さん

農業研修に参加し、農業の厳しさを体験して学ぶことが出来ている。体力がかなりついたと思う。しかし、来年からのビジョンが固まっていけないので少々不安とあせりを感じる。

下左2/ 野田 俊介さん

受入農家：安藤さん

現在感じている事は畑とどう向き合うかという事です。研修前は上辺だけで農業を語っていました。今は、暇があれば除草をして畝で畑を耕します。謙虚に働く事だけが農と繋がる手段になりました。

下左4/ 正木 暁子さん

受入農家：西山さん

「のどかな田園風景に囲まれ汗を流す…」というイメージとはほど遠い農業の厳しさを痛感しながらも、作物が育つ喜びや売る楽しみ、「やりがい」を少しずつ感じ日々奮闘しています。

下左5/ 桑原 章江さん

受入農家：西田さん

安全安心な野菜を食べたいというのが有機農業を選んだきっかけでした。循環する農業・子供たちが安心して食べられる野菜作りを目指し、楽しい農業が出来たらいいと思います。

受入農家さん紹介

現在研修生を受け入れている10軒の受入農家のみなさんです。それぞれのスタイルの有機農業を実践しながら、ご指導いただいています。



山鹿市/田代さん



南小国町/梅木さん



山都町/西山さん



菊陽町/中村さん



山都町/原田さん



熊本市/西田さん



山鹿市/安藤さん



宇城市/澤村さん



宇城市/森田さん



植木町/間さん

放射性セシウムの暫定許容値が設定されました

肥料・飼料等の放射線セシウムの暫定許容値が設定されました。堆肥・
土壌改良資材・培土に含まれることが許容される放射性セシウムの最大量 =

1kg(製品重量)
あたり
400ベクレル

暫定許容値を下回る堆肥・土壌改良資材・培土等を使いましょう

- ★ 堆肥等を購入したり譲り受ける際には、販売業者や相手の方に、いつ・どこで・どのように生産・保管されたものか確認しましょう。
- ★ 自ら生産した堆肥等を使う際には、使った原料・生産時期・保管場所(方法)等を確認し、放射性セシウムの状況やその取扱について、県に相談しましょう。
- ★ 堆肥等・堆肥等原料または飼料・飼料原料を販売・譲渡する場合は、生産状況等の情報を適切に提供しましょう。

※詳細については、県の担当課にお問合せください。

熊本県農林水産部生産局 農業技術課 植物防疫・農薬監視班
tel:096-333-2381(直通)

注意



玄米菜食dining 旬 — 生産者の応援団 —

今年4月、草葉町にオープンした「玄米菜食dining 旬」では、マクロ食の方も安心・満足の洋食メニューが楽しめます。大豆グルテンのハンバーグ、豆乳クリームのパスタなど、飽きの来ない濃厚な味わいです。デザートのアイスも牛乳製(生クリームでなく)でヘルシー。個人的には玄米アイスがホームランでした。

「農作物をはじめ、食べ物全般を作る人を応援したい」。そんなお店の姿勢を反映して、カウンターの上には色々なパンフレットやイベント情報のチラシが並んでいます。もちろん、お店で扱っている有機野菜の生産者グループ「どれみ村」の紹介も。「野菜以外の材料にもこだわって作りたい!」という方向けに、上質な調味料等の販売コーナー、さらには関連図書コーナーも充実しています。正食協会で行ったことと、食に関する意識の高さが伺えます。話しやすい店長とカジュアルなお値段で、気軽に通えるオシャレなお店です。〈広報・松本恵美〉



●玄米菜食dining 旬

熊本市草葉町4-10 エトワール草葉1F-A
TEL:096-355-0345

菜の花プロジェクト

菜の花プロジェクトではこの春、メンバーで手分けをして、遺伝子組み換えナタネが自生していないかどうか、GM ナタネ自生調査活動として熊本の9地点の調査をし、結果を5月末に「遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーン」事務局に送りました。国内自生の原因は、輸入したGM 西洋ナタネ種子が国内運搬中に飛散（こぼれ落ち）し、非意図的に生育した結果と言われています。それで、今回の調査地点は国道沿い、港、港から伸びる道路沿いを主に選定しています。今回の調査では、調査地点の全てから遺伝子組み換えナタネは検出されませんでした。

〈菜の花プロジェクト 間司〉

※調査場所…八代港周辺2カ所、熊本港から3km 地点の土手、熊本市野田の御船川土手、人吉 IC 入口付近の土手、あさぎり町目郎の球磨川土手、玉名市上月瀬地区の菊池川土手、山鹿市方保田の市民農園横、植木町今藤地区北原開田の畑地



青年部

夏らしくない長雨がようやく終わった8月の最後の週末27日、28日に、鹿児島県霧島市にあるキャンプ場にて開催された「若けもん集い」との交流会に参加してきました。九州、山口の有機農家や流通業者、研修生など若い人達が集まって語り合おう、という企画で、3年前の熊本の小国での開催に続き今回が2回目です。総勢40名ほどのうち、地元鹿児島の参加者が概ねを占めましたが、熊本からは、就農5年目の自分と、熊有研の研修生2人の計3人が参加しました。一日目は鹿児島と熊本の若い有機農家の現状と活動報告、就農にあたっての課題について、栽培技術等についてのスライド、夕方からは、近くの温泉で日頃の疲れをいやして、鹿児島の若い生産者が持ち寄ってくれた食材をふんだんに使ったバーベキューで懇親会です。2日目は種取り講座と、今回の震災を受けて福島の有機農家さんへ手紙などでメッセージを送る企画です。川内原発を抱える鹿児島では、若い有機農家たちがいろいろと活動しているとのこと。とにかく、鹿児島の若い人たちの活気と楽しく農業に取り組むパワーに触れることの出来た集いでした。〈青年部 安藤光一〉



種苗部

料金別納郵便 種採りくらぶ	post card 毎日蒸し暑い日が続いていましたが、9月に入りやっと涼しい風が窓から入ってきました。最近、天候異変が激しく、地震、原発、竜巻、夕立の物凄い雨量、大きな台風の多雨、お盆過ぎの梅雨の雨を思わせる長雨と雨量の多さ。また、カラカラ天候で乾燥しすぎて種まきが出来なかったり、雨の降りすぎで作物の病気が入ったりと、日本全土災害の連続です。農家ですから、種まきや作付けが出来ないことが一番の悩みです。今は、私が小学1、2年生頃の暮らしからすれば、倍以上の豊かな暮らしです。このままで良いのでしょうか？ ぜいたく、無駄、無理なことなどを考えなおして、二酸化炭素を減らし、30年、50年前の環境に近づけることが、私たちのこれからの暮らしを左右するのではないかと思います。それが、私たち一人ひとりに考えてほしいテーマであり、それを行動に移せる勇気をもってほしいと思います。〈種苗部 徳田勇次〉 『オクラの花』写真 野中 元	たねとりにはロマンがある！ 種採り仕事人ファイル No.4 オクラ  浦川繁さん 浦川由美子さん (熊本県天草市新和町大多尾の園場にて) 私の種採りメッセージ ☆地元で栽培された消えてゆく恐れのある伝統的な野菜を守ってゆきたい。 ☆種を採り 腐葉土積み 苗床に二葉に託す 棚田の景色 熊本県有機農業研究会種苗部会 〒861-8028 熊本市新南2-5-13 TEL 096-223-6771 FAX 096-223-6772
--------------------------	--	---

種苗部では、オリジナルのポストカードを作成しています。写真は4作目となるオクラのポストカードです。

食農育部

食農育部会では、7月31日（日）、熊本市黒髪「はあもにい」食のアトリエにて、「親子料理教室」（熊本市との協同企画）を開催しました。36名の参加でにぎわい、スタッフ（市来・森賀・吉川・岸川）は準備にテンやわんやでしたが、子どもたちにとっても、旬の野菜たっぷりのとても良い料理体験になりました。夏野菜（トマト・ピーマン・なす・かぼちゃ・玉葱）の米粉カレーとピクルス（きゅうり・玉葱）の調理に加え、紅茶作りも体験。全員一緒に茶葉の手もみ作業を行った後、4班に分かれ、子どもたちも野菜を切ったり、煮込んだり、真剣そのもの。でき上がりを楽しみに、生き生きとした表情に見えました。仕上がった料理の試食では、野菜の味がする！おいしい！！とうれしい感想が聞かれ、デザートは巨峰の甘さも堪能。調理に使った野菜や米、米粉や有機農業の話も交えながら、吉川さんのお手製米粉シフォンケーキも楽しみました。最後に発酵した茶葉の乾燥方法のデモを行って紅茶も完成。参加された皆さんが、これを機に有機野菜に興味を持ち、もっと知りたいという気持ちが出て、有機農業の普及につながれば良いなあと感じた企画でした。

〈食農育部 岸川厚子〉



生ごみ循環プロジェクト

この春、新しい活動が始動しました！その名も「生ごみ循環プロジェクト」。熊本市からの依頼により、公民館等で開催されるダンボールコンポスト講座での講習が主な活動で、「いのちの循環」を多くの方に広められるよう第一歩を踏み出したところです。講座では、ごみの分別ワークショップを取り入れたり、実際にダンボールコンポストの組立てを行ったりしながら、メンバーで独自に作成したマニュアルを使って、ごみ減量の方法と、家庭でどうしても出てしまう生ごみを堆肥化し土に還していくというサイクルを伝えています。今後は講師活動と並行して、マニュアル（1冊100円）の普及をすすめたり、コンポストの基材について検討したりしていく予定です。現在メンバー募集中です。少しでもご興味のある方はどなたでも大歓迎なので、熊有研事務局までお気軽にご連絡ください！



■6—9月活動報告■

- 6/6(月) 養成塾集合セミナー
- 6/16(木) 有機 JAS 講習会 (御船町)
- 6/21(火) ゆうきフェスタ実行委員会
- 6/26(日) 第5回判定委員会
- 7/7(木) 養成塾集合セミナー
- 7/11(月) 審査員研修会議
- 7/12(火) ゆうきフェスタ実行委員会
- 7/22(金) 火の国九州・山口
有機農業の祭典 実行委員会
- 7/23(土) 第3回理事会
- 8/5~6 養成塾宿泊研修
- 8/6(日) 第6回判定委員会
- 8/9(火) ゆうきフェスタ実行委員会
- 8/26(金) 臨時有機 JAS 講習会 (宇城市)
- 8/27(土) 火の国九州・山口
有機農業の祭典 熊本実行委員会
- 8/30(火) 有機 JAS 講習会 (阿蘇)
- 9/9(金) ゆうきフェスタ実行委員会
- 9/11(日) 第7回判定委員会
- 9/12(月) 審査員研修会議

□■今後の予定■□

- 10/2(日) 火の国九州・山口
有機農業の祭典 熊本実行委員会
- 10/2(日) 第4回理事会、理事研修
- 10/7(金) 有機 JAS 講習会 (御船町)
- 10/7(金) 養成塾集合セミナー
- 10/8(土) ゆうきフェスタ第1回出展者会議 (合志市)
- 10/30(日) 第8回判定委員会
- 11/7(月) 審査員研修会議
- 11/10(木) 養成塾集合セミナー
- 11/12(土) ゆうきフェスタ第2回出展者会議 (合志市)
- 11/20(日) ゆうきフェスタ2011
(合志市 / カントリーパーク)
- 11/26(土) 第5回理事会
- 12/2(金) 有機 JAS 講習会 (植木町)
- 12/2(金) 養成塾集合セミナー
- 12/10(日) 第9回判定委員会



ゆうきフェスタ2011

2011年11月20日(日) 熊本県農業公園カントリーパーク

今年のテーマは「見つめ直そう、私たちの暮らし」。福島の有機農家さんをお呼びしてのトークイベントや、米粉ピザ作り体験、サッカー教室などの多彩な企画と、ずらりと並んだテントでの物販や展示で楽しんでいただきながら、人にも環境にも優しいオーガニックな暮らしを提案します。

今年は、広々とした芝生広場の農業公園カントリーパークでの開催です。美味しいごはん、こだわりの食材、元気なお野菜、ハンドメイドの雑貨など、例年にも増してにぎやかな会場で、みなさまのお越しをお待ちしております！



※フェスタの詳細は、チラシや熊有研 HP でご案内しています。
その他お問合せ等は事務局まで！

火の国九州・山口有機農業の祭典

2012年2月4日(土) ~ 2月5日(日)

会場：阿蘇の司 ビラパークホテル

2012年19回目を迎える「有機農業の祭典」は、熊本での開催です。今回は震災と原発事故を受け、暮らしや有機農業のあり方を考えながら、基調講演や分科会、毎年恒例の夜なべ談義や種苗交換会も行います。

有機農業の生産者・関係者はもちろん、有機に関心のある方ならどなたでも大歓迎です！スケジュールや参加費など詳しくはチラシをご覧ください。事務局までお問合せください。



★ 種*花クイズ 応募方法 ★

表紙のクイズの答え・住所・氏名・電話番号・ゆうきの感想をお書き添えの上、郵送かFAXまたはメールにて、下記宛先までご応募下さい。(応募〆切：11月末日)

●問合せ・応募先

〒861-8028 熊本市新南部2丁目5-13

FAX：096-223-6772

MAIL：info@kumayuken.org

熊有研広報部「種花クイズプレゼント係」宛

★ チケット利用協力店 ★

- | | |
|---------------------|---------------------|
| *エヴァ ダイニング(福岡市) | *ちゃぶ台(玉名市) |
| *ビストロ シェル コパン(山鹿市) | *オルモ コッピア(阿蘇市) |
| *泉力の湯(西原村) | *風流(西原村) |
| *健味健康園 レストラン大河(益城町) | *キッチン太郎(子飼) |
| *カフェテラス野の花(黒髪) | *ピオ サルーテ(駕町通) |
| *アスペルジュ(並木坂) | *玄米菜食 dining 旬(草葉町) |
| *プライベートロッジ(並木坂) | |
| *土に命と愛ありて ティア(本山町) | <順不同、9月現在> |

前回の答えは「だいこん」でした。

▼今回の「養成塾特集」のため、研修生の受講様子を取材しましたが、皆さんしっかりとした考えを持って、有機農業の世界に入ってきたことがよくわかりました。皆さんこれからは頑張ってください！(菊池)

▼今号から広報部に入った兼瀬です。デザインは得意ですが、編集作業は結構苦手なので、読んで

広報部 編集後記



このタイトルは、熊有研会報第1号から使われていたものを縮小したものです。

方はお手柔らかにお願いします(笑) 見て楽しくなっていたけれどうれしかったです！(兼瀬)

▼この度、起業の関係で美里町に引っ越しました。こちらは就農人口が多く、高齢化率が高い地域です。となると当然続く耕作困難地。この問題を解決する福祉の提供を目指します。乞うご期待！(松本)

▼表紙の種花クイズが2年目に突入しました。ありがたいことに徐々に協力店も増え、より多くの方にチケットを！と思い今号からさりげなく当選者数を増やしています。ぜひご応募下さい。(出田)